

ゆめ わらわ 夢 立 章

菅波 茂

先月10日、インドのビハール州ブッダガヤ。多額の貧しい妊産婦が受診しているAMD Aピースクリニックが設置されたシュリプール村を訪問し、「相互扶助モデル地区」としての支援を決定した。

カースト制度の最下層とされた部族。114世代2000人。男性の職業は日雇い、女性は零細農業。栄養失調で頬が欠けた女性は歯が出ているように見える。政府が貧困改善に提供した耕作用地は水利施設がないため未使用のままだ。

「30万円あれば、水利ポンプと村人の寺院のどちらを優先するか」の問いに小さくても寺院との

見て猛ばく進中だ。AMD Aピースクリニックに勤務していた45歳の女性、ベータ氏がアール村プライマリヘルスケア推進3カ年計画を決定。村人の団結力の象徴としての寺院建立、貧困脱却として水利施設の整

備による稲作や野菜作りの拡大、乳牛飼育による牛乳の販売収入、アーユルベータ薬草園による収入、養鶏による動物性たんぱく質の摂取。ベータ氏の悲願である「相互扶助」複合施設設立支援。

進」で、3原則は①住民参加②知識の普及③経済的社会的要因の改善である。いくら知識の普及をしても食べられなければ意味がない。食べるための貧困脱却。経済的社会的要因の改善策として資本を提供する小規模融資が1998年から世界基準として普及している。インド政府も必要な法律を制定しているが、絶対的貧困層までに恩恵がなかなか届かない現状がある。

学は学生数が50万人の権威ある国立大学である。全ては岡山にある宗教法人太生山一心寺(中島妙江住職)の女性信徒様の2000万円のご寄付から始まった。「アジアの人たちの命を救って下さい」と。仏教の聖地であるブッダガヤ中心地域で

AMD Aピースクリニックによる母と子の健康教育等である。村人の団結力の象徴としての寺院建立、貧困脱却として水利施設の整

AMD Aグループ代表)とご尽力にこの紙面を借りて改めて感謝したい。なお、AMD Aピースクリニック3カ年計画は次世代を担うAMSAや多くの学生たちの海外研修の貴重な場としても活用する予定である。皆様方のご理解とご支援をいただければこの上ない喜びである。



女性のための職業訓練センターでベータ氏(中央)と筆者(左端)

先月14日。AMD Aとマガダ大学ガヤカレッジとのMOUを検討。内容はコミュニティ健康教育と日本語教育の普及である。ガヤカレッジは44年設立。生徒数は約2万人。イスラム学長は教育向上に燃える53歳。ガヤ地域貧困層支援にも力を入れている。5年前に岡山を訪れ